

様

『令和 6 年 9 月 珠洲市洪水支援活動』活動報告書

2024 年 10 月

認定 NPO 法人ピースプロジェクト

理事長 加藤 勉

平素は大変お世話になっております。

令和 6 年 9 月 21 日に発生した『令和 6 年 9 月能登半島豪雨洪水災害』に対する支援活動に多大なるご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございました。

当会は、9 月 24 日に現地入り（珠洲市）、25 日から珠洲市の避難所（若山小学校）で炊き出し支援活動を一週間実施いたしました。

ここに活動報告書として活動内容をご報告申し上げますと同時に、改めてご支援、ご協力に対する感謝を申し上げます。

【概要】

- ・ 出動日：2024 年 9 月 23 日～9 月 30 日
- ・ 炊き出し提供回数：6 回
- ・ 炊き出し提供食数：983 食（うちおにぎり 215 食除く）
- ・ 総受益者数：1,068 人

【協働】

- ・ 認定 NPO 法人 AAR Japan

【活動内容】

9月21日(土)

メンバー招集（理事長加藤は海外出張のため、LINEにて主要メンバーに指示）

9月22日(日)

現地情報収集・活動準備

1月の地震の緊急支援先珠洲市若山町の河川「若山川」の氾濫により洪水発生、若山地区在住のピースご協力者2名より、情報提供。

- ・若山川近隣の地震での被害を逃れた家屋に多数の床上浸水被害あり。
- ・豪雨による電柱の倒壊で市内一部のエリアで停電発生。
- ・地震で倒壊し、復旧したばかりの浄水場の給水塔へ土砂流入により、上水道は23日まで珠洲市全域で計画断水。
- ・洪水の影響で珠洲市若山町出田～飯田の道路が通行止め。

以上の情報と稼働できるメンバーの予定調整を鑑みて、ハイエースの移動を含めて活動を23日早朝からに決定。

9月23日(月)

ハイエースを保管場所よりメンバー1名(青山勝)が移動、他2名(青山雅、矢沢)と共に事務局に7:30集合、岩本町倉庫より器材積み込み、足立倉庫から器材積み込み、能登半島へ向けて出発。

途中、高岡市内にて食材・器資材を購入。避難所・公民館・仮設住宅・近隣在宅被災者合わせて100名ほどを想定。

22日・23日は避難所に15時頃お弁当の配食あり、との情報あり。(のちに誤情報で配食がなかったことが判明)。

22:00 珠洲市に到着

地震災害支援時に宿舎としていた出田地区の研修所も床上浸水の被害にあい、当法人の七尾のマンションを拠点とする方向で検討していたが、停電・断水にも拘わらず「正福寺」より寝床をご提供いただけるとご提案があり、宿泊先とさせていただく。

【写真左】 子ども食堂ボランティアさんが積み込みのお手伝いに来てくださいました。

【写真右】 途中、高岡市内にて買い出し完了。ハイエースはこれ以上荷が入らない状態。



9月24日(火)

8:30 珠洲市指定避難所若山小学校にて1月~5月に使用していた学校敷地内の外エリアでのテント・テーブルの使用許可を得、避難所・公民館から現地の情報収集と確認を実施。

指定避難所若山小学校に1月からの被災者が9名、
小学校体育館に今回の洪水災害による新たな被災者が14名、
若山小裏の仮設住宅に69世帯入居の正確な情報を得る。

ピース所有のガスボンベの残容量が少ないため、珠洲市出田地区にあるJA燃料センターよりガスボンベ2台借り出し、同センターは水道が使えることから水タンクへの給水への協力を得る。

珠洲市内スーパー「だいまる」にて営業・仕入れを確認、生鮮食材の買い足し実施。避難所の朝食・昼食の配食がないため、バナナ1ケースも購入。

日中避難所・仮設住宅ともに人がほとんどいないこと、炊き出しメンバーが少数であることとお弁当の配食がある、との情報から炊き出しメニューを避難所はお弁当に合う野菜主体の汁もの、在宅避難者は断水・停電を鑑みておにぎりを提供することを決定。提供時間はお弁当配食の15時を目処とする。

当法人の活動を知り、夏のキャンプに参加した小学生4名、その保護者などが炊き出し配食のお手伝いとして参加。また、小学生1名がいる緑ヶ丘小中学校の避難所にも配食がないことが判明。18名分を保護者が運搬してくださるとのことで炊き出し提供とする。

11:00 炊き出し現場にガスコンロ、器材搬入・設置開始。

12:30 炊飯1回目、炊き出し準備開始。

16:00 予定より1時間遅れで具たくさん豚汁、おにぎり提供。

提供数：豚汁130食、おにぎり215食、バナナ100本

【写真左】 1月からの支援で使用させていただいたテント・テーブルを引き続き使用。

【写真中】 提供した豚汁

【写真右】 炊き出しがあることをきいてたくさんの方が受け取りに来られている様子。



9月25日(水)

8:00 メンバー青山(勝)帰京のため、空港へ送ったあと、能登町へ向かい、器資材追加購入とあわせてスーパーどんたくにて食材購入。

避難所へ提供していたお弁当屋さんが断水のためお弁当の配食がなく「当面提供が困難」との前日情報から献立を変更。夕食1食のボリュームを上げてチキンカレーとする。

メンバー2名での買い出し・準備時間を考慮して提供時間を16時としたが、15時過ぎから避難所に人が集まった。

この日は避難所への昼食提供として他団体の炊き出しがあり準備が13時を回ってからとなり、提供時間が遅れた。

この他団体のメニューは『豚汁とおにぎり』で前日の当会メニューと全く同じであったため、メニューの選び方には留意がいることを再確認する。

小学校に6000ℓの給水車が1日中来ており、炊き出しへの使用も許可を得る。

宿泊させていただいている正福寺の電気が朝に復旧、水道も通水するが、土砂が混じっており、市から飲料・食事への使用は当面控えるようにとの情報あり。

16:30 チキンカレー提供。

提供数：160食

【写真左上・左下】メニュー表示と配膳の様子(結局提供は17時近くになりましたが。。)

【写真中上】提供したカレーライス

【写真中下・右】避難所の小学生たちがたくさんお手伝いに駆けつけてくれました。



9月26日(木)

8:30 提供数が予定よりも多いことから、ホームセンタームサシにて器資材を追加購入。フタつき容器の在庫数に不安が残る。

スーパーだいまるにて今後の献立メニューの食材を事前オーダーし、今後の日程の買い出し時間の短縮を図る。また提供時間を17時に変更。

理事長のもとへ、西日本豪雨災害の時にボランティアとして参加していただいた方より『長野産シャインマスカット』の食材支援の連絡あり。

17:00 洋風トマトスープ、バターライス添え

提供数：166食

【写真左】 今回の炊き出しも AAR ジャパンとの協働です

【写真中】 被災されているにも関わらず、調理をお手伝いして下さる現地のボランティアの方々

【写真右】 提供の夕食



【写真左】 今日もお手伝いに来てくれたこどもたち

【写真右】 3日目に入ると炊き出し情報が伝わり洪水による在宅避難の方も多くいらっしゃいました



9月27日(金)

9:50 加藤が海外出張から戻り、東京から能登へ飛行機にて移動、到着。

青山(雅)は帰京のため空港でメンバー入れ替わり。

11:00 スーパーだいまるにて買回り品とオーダー食材をピックアップ、準備開始。

工程を減らしたメニューだったこともあり、予定の17時より早くから提供開始となった。

また、週末に金沢に在住の家族と過ごす予定の人などが多く、提供数は前日より少ないものとなった。

16:30 麻婆丼

提供数：150食

【写真】出張戻りで炊き出しに加わった代表の加藤



【写真左】避難所で毎回お手伝いしてくださるさっちゃん。ようやく仮設住宅が決まりました。

【写真中】提供の夕食 麻婆丼

【写真右】地元柳田のお豆腐屋さんの厚揚げ使用でたんぱく質アップ。



9月28日(土)

9:00 器資材追加購入後スーパーだいまるにて食材購入。

避難所のお弁当配食が10/1～開始との現地情報を得る。

活動期間を9月いっぱいの見込みとする。

15:00 届いた寄贈品のシャインマスカットをカットして紙コップに入れて提供準備。

17:00 豚丼 提供開始

提供数：223食

【写真左】食数が増えたので50センチ両手鍋2つ分を用意(一つがおおよそ200食強分の目安)

【写真右】ピース2名の最小催行人数にさっちゃんと飛び込みのボランティアさん2名で活動



【写真左】提供の夕食 豚丼

【写真右】寄贈品の長野のシャインマスカットも世帯ごとにお渡し



9月29日(日)

メンバー矢沢が初動から連勤を鑑みて、一日休息日とする。

9月30日（月）

今回の支援最終日は「牛焼肉丼」とする。

10：00 空港で矢沢をピックアップ後、スーパーだいまるが定休日のため、スーパーどんたくにてオーダーしておいた食材をピックアップし若山町へ。『現地地元スーパーで買い物をする』というのは以前から当会の方針。

11：00 炊飯、準備開始

若山で炊き出しを計画している有志団体の方がお手伝いに入る。

16：45 牛焼肉丼提供開始。

提供数：154食

【写真左】公民館の仕事の休み時間で調理を手伝ってくださるがけさん

【写真右】タオル大作戦(後述)の際に上黒丸地域にも配食がないことが判明し食事をお渡ししました



【写真左】提供の夕食 牛焼肉丼

【写真右】提供時間になると小学生2名が待っている方々へアナウンスして提供開始です



付記：9月30日「タオル大作戦」

有限会社インスピリット様との協働企画。

洪水で被災した方々の掃除用に使っていただくためのタオルを SNS で募集し、衛生面を考えて新品に限ったものの、集まったタオルは 200 枚以上。

途中参加の加藤が大型スーツケースで現地入りした理由、スーツケースの中ほとんどがタオルでした。現地若山川の氾濫の被害に遭ったエリアを、ボランティアの篠原さんの情報とご案内で配布に行き、各ご家庭へ手渡ししました。

河川の泥は簡単には落とせるものではない上に、一度拭くと粘土質の土がくっついてしまうため、洗って再度雑巾として使うには、それ自体が大変な作業となります。

「掃除中に使い捨てて次々にタオルを使ってください」とご寄贈のタオルを配布して回り、その際、被害についても話を伺うことができました。川から離れている地域でも、あふれた川の水が水田に入り、それがさらに押し寄せて、被害に遭ったご家庭も多々見受けられ、普段はほとんど水量も少ない川が報道にあったように一面が泥海の状況であったことがわかります。

皆様口々に「これは助かる」とおっしゃってくださいます。タオル数枚を渡すだけの活動ですが、現地でそれぞれのご家庭を訪問することが「見える活動」につながると信じています。

「タオル大作戦」へのご協力くださった皆様、ありがとうございました。



10月1日（火）

片付け最終確認、ご挨拶。帰路、途中輪島市の現況視察し、帰京。

【写真上左】川沿いの道路は土砂・土木が左右に堆積。道路すべてが泥水で埋まったとのこと。

ピースが珠洲市に入る前日 22 日まで通行止めだったとのこと。

【写真上右】珠洲市若山川のすぐわきの被災した家。家を超えて土砂・土木がガードレールに堆積。

【写真下左】輪島市の倒壊したビル、10 月に入ってやっと解体作業が始まったそうです。

【写真下右】対岸側からとった若山川の脇。右の赤い屋根は地震支援中、ピースが宿舎として使わせていただいた研修所で今回床上浸水となった。隣の家は地震で地盤が危ないとのことと住民は避難していたが、洪水によって地盤が崩落。この家の住民の方も今回炊き出しを利用されています。



【活動中にご協力いただいた方々】

- ・有限会社インスピリット【INSPIRIT】（タオル大作戦・タオルご寄贈）
- ・岡山県在住 S 様（長野県産シャインマスカットご寄贈）
- ・正福寺（ピースメンバー宿泊先、炊き出しボランティア）
- ・現地ボランティアの皆様
（さっちゃん、篠原夫妻、欠さん、三沢さん、こっちゃん、さらちゃん、なおきくん、みずきくん、他、若山小学校の生徒たち、炊き出し利用で待つ間にお手伝いくださった方々）

【所感】

2024年元旦の巨大地震によって石川県の能登半島全体が被災地となり、特に当会が支援に入った珠洲市は北端に位置するため、現地に支援活動に入るにも大変なロケーションであることが支援・復興を大いに妨げているように感じていました。

その珠洲市で豪雨災害が発生、1月～5月に及んだ地震支援活動は次フェーズへ移行のタイミングと帰京したはずが、『再度被災』の報道を見て当法人メンバー全員言葉を失いました。

『災害大国』と呼ばれている日本で当会も毎年のように洪水災害支援活動を行っていますが、見慣れた場所が報道され、被害に遭っている場面を見ることは本当に辛いものでした。

当時者である現地の被災者の皆さんの気持ちを思うと、支援活動前の準備を冷静に行えないほど居ても立っても居られない気持ちでしたが、ピースメンバーの冷静な判断で、現地が豪雨の状況で私たちが動くのは危険を伴うこともあり、通行止め等のエリア等の情報を得ながら移動、活動開始するのが最も得策と決断して活動開始に至りました。

現地についてからも「停電・断水」という洪水災害の被災地はいつもその状況に陥るのですが、地震で壊れた給水塔が復旧され、ようやく珠洲市のほとんどに水が通った（一部未だに断水状態です）経緯を知っているだけに、この「2回目の被災」が被災者へ与えた心理的なダメージは計り知れず心が痛みました。

ここで2つのエピソードを紹介します。

炊き出しを行っている小学校に通うピースプロジェクトの夏のキャンプに参加した、「さらちゃん」と「なおきくん」のお話です。彼らを含めた子供たちみんな、私たちが到着するや否や、窓から顔を出して手を振ってくれ、毎日放課後に炊き出しの配膳のお手伝いをしてくれました。

先ず、さらちゃんは再会した日に私たちに手紙をくれました。その中にはキャンプでの楽しい思い出に加えて、「ピースさんありがとう」という内容が書かれています。彼女は地震からずっと避難所生活を送っていて、キャンプから戻る帰りのバスで「避難所に戻りたくない、毎日お弁当を食べる（生活）がもう嫌」と泣いてしまった子でした。学校に来たさらちゃんのお母様からのお話です。

「（初日、さらちゃんが）『ピースプロジェクトさんが炊き出しでまた学校に来たよ、手伝ってきたよ』と嬉しそうに報告してくれて、2日目は『私は被災して家に戻れないし、避難所にずっといるけど、でも今幸せだよ』と言ってくれたんです。

『地震があったからこうしてピースさんたちと会えたし、キャンプにも行けて、今回はまた一緒にお手伝いができるから』って。「うちの子にそんな風に今の生活を“幸せ”と思わせてくれて、本当にピースプロジェクトさんには感謝しかありません。」と言われました。

もう一つのなおきくんのエピソードです。彼も毎日放課後真っ先に炊き出し作業場へ駆けつけて「ランドセルおいてすぐきます！」と行って戻ってきて笑顔で手伝ってくれていました。

活動 3 日目の後片付けが終わって、20 時近くになったときに、お母様が「なおきの母です。キャンプのことも、今回のことも、一言御礼が言いたくて、緑の T シャツが見えたので急いできました」と走ってこられて 20 分ほど立ち話をしました。

元々なおきくんの家は地震の影響は少なく、キャンプのときも自宅に住んでいたとのこと。ところがその家が若山川のすぐほとりで、今回の洪水で“床上”浸水 80 センチという甚大な被害に遭われました。なおき君からは一切そのことを私たちは聞いていませんでした。

なおきくんのおばあちゃんの家は地震で被災して倒壊、小学校の裏の仮設住宅にはいついたため、豪雨の避難指示の時はそちらに家族全員で避難していたそうです。対岸の家の方から送られてきた動画を見せてもらいましたが、なおきくんの家の周辺一帯に、泥水が海のように流れています。

「どうしていいか先のことが全く考えられなくて毎日苦しいけどその中で子供たちの前では泣かないと決めているので」とお母様は私たちの前で号泣されました。

「でも初日からなおきが『ピースさん来た！手伝ってきたよ！宿題やってからって言われたからやったよ』って嬉しそうに話してきて、子供たちが普通に生活を送っていくことが親の私たちの望みなのでそれがすごくうれしかったです。私が日中ずっと家に片付けで行っているの、おばあちゃんに下の子の保育園の送り迎えも頼んでしまっていて、高齢でこどもを連れて移動だけでも大変で、『家（仮設住宅）に戻ってから食事の支度をするのが大変だったけど、美味しい夕食が配られて保育園からもどってからすごく楽ができていますよ』って喜んでいますし、私も 1 日中片付けした後のこの時間に子供たちの食事を作る元気もなくて。本当に美味しいごはんに助けてもらっています。ありがとうございます。」と泣きながら話されました。

ピースプロジェクトの支援活動は困った方々に少しでも手を差し伸べることができれば、自分たちにできることをやる、という方針で設立当初から継続しています。そして、ピースプロジェクトは NPO 法人です。ご支援いただく皆様のご寄附・ご協力なくしては活動に至りません。

この 2 つのエピソードを当法人の今回の支援活動を応援・支援してくださった方々への当法人からの感謝の言葉に代えさせていただきます。

またピースメンバー一同、このような活動に従事させていただけることにも感謝を申し上げます。

皆様のご支援、ご協力ありがとうございました。

2024 年 10 月 15 日
認定 NPO 法人ピースプロジェクト
代表 加藤勉
矢沢りえ
青山雅樹
青山勝彦